

く真言密教の聖地・高野山く 今のままのわたしでいい



弘法大師空海によって、真言密教の修行の道場として816年に開創された高野山。実はひとつの山ではなく、標高1000m級の8つの峰に囲まれて蓮の花びらのような形をした、東西6km、南北3kmの盆地のことをいいます。

最盛期には2000にのぼる寺院があり、江戸時代にも700ヶ寺を数えたものの、廃仏毀釈、大火などを経て、現在は52ヶ寺が大規模な宿坊として存続しています。

世界遺産にも登録され、今や、世界中から年間約200万人が訪れる観光地でもありません。

2度、3度と訪れる人も多いという、高野山の魅力はどこにあるのでしょうか。



高野山って、どんなところ？

高野山では時間の流れが変わるような感じがします。周りを見回せば、観光バスが次々と到着し、カメラ片手の観光客も大勢。普通の観光地と全く変わりません。なのに、自然と呼吸が深くなり、時間がゆっくり流れているように感じるのです。抜けるような青空、目に鮮やかな四方の山々、澄んだ空気。それらが心を落ち着けてくれるのでしょうか。なんとも言えない清々しさと安心感に包まれます。

高野山の歴史

平安時代初期に唐に渡り、密教のすべてを伝授された空海。帰国後、僧侶を育成する道場を高野山に開くことに着手しましたが、835年に入定したとき完成していたのは、西塔など3つ。その後も弟子

たちによって大塔の造営が進められ、遂に空海の思い描いた伽藍が完成したのは887年のことでした。ところが、994年に大塔に雷が落ち、周りのお堂も焼失。高野山は一時期、衰退していきます。しかしながら、時の権力者、藤原道長、平清盛、北条政子、豊臣秀吉、徳川家などが信仰し、高野山の興隆に貢献。奥之院参道の両側にひしめく墓石名を眺めていると、さまざまな権力者から篤い信仰が寄せられていたことが分かります。

高野山の宿坊

江戸時代には2万石余りを与えられ、繁栄を続けていた高野山も、明治維新によって寺領返還、荘園や山林の没収、廃仏毀釈など、厳しい時代を



高野山定番のごま豆腐、丁寧に作った出汁で煮含めた山菜など、舌も目も楽しめる精進料理が人気の一乗院

迎えました。この危機を、各寺院は宿泊施設を提供する「宿坊」へと転換することで乗り越えたのでした。

今、高野山を訪れる楽しみの一つは「宿坊選び」と言ってもいいほどに、それぞれに工夫を重ねた精進料理、庭園などが提供されています。朝勤行、写経、阿字観などの宗教的体験、襖絵や掛け軸、仏像や仏画などを味わい、法話に耳を傾ける。日常から離れた、静かな空間に身を置く贅沢を味わえます。

街歩きも楽しもう

朝晩の食事は宿坊で、高野山の基本ですが、町での食事もしみの一つ。豆腐を使っ

